

平成27年度第2回一宮市子ども読書活動推進懇話会 会議録（要旨）

1 開催日時 平成28年2月17日（水）午後2時～午後4時18分

2 開催場所 中央図書館 7階 講座室

3 出席者 懇話会委員：10名

事務局：8名

4 議 題

（1）第3次一宮市子ども読書活動推進計画の策定について

（2）その他

5 開 会 （事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和

図書館長挨拶

懇話会会長挨拶

6 会議録（要旨）

議事進行は、会長が務めた。

（会長） 議題（1）について、審議をお願いします。

（事務局） 第3次計画策定における背景及びスケジュール等を説明。

（会長） 今日の会議の目標はスケジュール表での日程の確認だと思います。それから、策定部会で案を作っただけで、私共がそれについて意見を言うだけでいいのかどうか、教えてください。

（事務局） 基本的には今の計画を土台に策定部会を進めていきたいと考えております。自由なご意見を次回の懇話会の中でいただいた上、素案作りに反映させていければというふうに考えているところです。素案が出来上がった後今度は合同会議の中でその素案について色んなご意見を頂戴することになるかと思っております。そこでは行政の立場からの意見も反映していく必要がありますので、更に修正を加えてパブリックコメントの案を作っていきたいと考えております。

（会長） そうしますと今度の4月、5月の時には、この図書館だけではなくて、この推進計画そのもの、福祉こども部だとか市民健康部だとかに於いての意見も含めて、こういう事でいかがでしょうかみたいな事を言わせていただければよろしいのですか。

（事務局） その通りです。これでパブリックコメントにかけますという案は28年10月頃になり、パブリックコメントの性質上、その中で取り入れるべき意見がございましたら更に修正を加えますので、それが29年1月の策定部会ということになります。それを基に最終的な案を29年2月にご審議をいただくということになります。

（会長） では、それをふまえて何かご意見がありましたら。

（委員） 推進会議の時に、流れと経緯を教えてくださいと、次に私達も何かできることがあるだろうかというところに繋がっていくのではないかと思います。

それと、第2次に至ってもまだ未実施の辺りを念頭に入れて、第3次に向けて計画をお話していただきたいなという思いがあります。

（事務局） 今回は4月、5月に予定している第1回の懇話会で予め他部課に渡るご意見も頂戴をして、それを副主監級の策定部会でも検討して、部内で検討してもらった結

果を合同会議で回答することを考えている訳です。

(委員) 合同会議にいらした方達の前で示される案というのは、既に各部署のところで話し合われたものを私達に示されていると思います。各部署の方は、具体的なことを示して、さらにその根拠を示すと分かりやすいと思います。

(事務局) 今後、合同会議の進め方の一つの案としては、事前に資料をお配りした段階で質問・意見カードをいただいて、それに当日お答えするという形をとれるのではないかと思います。進め方自体についても4月・5月の懇話会でご意見をいただけたらと思います。

(委員) 今日の懇話会の後は今度4月、5月に委員の意見を聞いていただけるという日程なので、私は2次の計画をもう一度見直して、第3次に向けてどう変更したらいいかの意見をまとめてくるということでもいいですか。

(事務局) おっしゃる通りです。前回の合同会議の時の資料もよく見比べていただいて、今後の5年間はどうかについてご意見をいただければと思います。

(委員) 自分は一体何をやったらいいのか、ご意見をとと言われても何をどう見ていいのか。どこかの課がその場で何か言われたとしても意見としては言い辛いです。事前にこの数値目標の結果以外に各部局からこういう成果がありましたよとかこういう問題がありましたよとか抜粋されたものをいただければ分かりやすいですし、それが子ども読書推進計画でどんな子どもができたかという具合に具体化できるのではないかと思います。

(事務局) その通りでして、一つには数値目標を立てるという事自体が非常に難しいことです。実は数値目標も既に達成しているものが多いので、数値目標がこのままでいいのかどうかということが一つの課題でもあります。そういった問題と前回の8月の会議の中で、計画の個々の進捗状況についてはまとめがあります。ただ、中間段階でしかないので、もう一度7月か8月頃に予定されている合同会議で再検証が必要です。

(会長) 今のご意見ですが、やはり意見の聞き取りというこの文言はまだ残っているということですね。

(事務局) 当初の頃から懇話会に参加されておられる方は、第1次、第2次の進捗状況の中で思っておられたことがあるかと思いますので、広く意見をいただいて、それを策定部会で検討し、また合同会議で発表してもらうことを今考えているところでございます。

(会長) 例えばですが、4月、5月に、事務局サイドで、何かたたき台みたいなものをお伝えいただければ私共もそれについてお答えがしやすくなると思いますが。

(事務局) 日程の状況からいきますと、今度の4月、5月は事務局側がそういった検討を進めている段階になります。素案の案を作成して、それを合同会議にかかる相当前の段階で各委員さんに送付させていただいて、それに対するご意見を紙に書いたもので頂戴できればというふうに思っています。図書館だけでは答えができないものは、各部局にそれぞれの答えを求めなければなりません。それらをまとめた形で合同会議で発表し、答えをしながら進めていければと思っています。

(会長) 議事を進める上で懸念をする訳ですが、次の4月か5月に開かれます懇話会での意見聴取の時に、どういうふうに進めさせていただければいいのかが非常に困るところです。全体を見て、まず事務局さんからご提案をいただいて、その中にこ

ういう事も入れてはというような私共の意見の言い方のほうが無難のような気はしますが、いかがでしょうか。

(事務局) 今回につきましては、予め白紙の状態からご意見をいただいた上で、それを取捨選択させていただいて一つの素案を作っていく、それを文書で予め各委員さんにお届けをして、それに対してそれぞれのご意見、ご質問等を文書でいただいて各部局で回答をまとめてもらう流れを考えています。

(委員) 推進会議の時に市の各部署からたくさんの方が来てくださっていますが、もう既に自分達の部署ではこのように決まったということですよね。その文面から見る私達としては、ある部署では、未実施という意見が出てきてしまうのはどういうことかなと思ったりします。また、ある部署では、私達は全く知らなくて、でも、ちゃんと実施していますと文面では出てきています。その辺りの疑問点を推進会議で聞いてくださいとそういう意味ですね。

(事務局) これまでの合同会議で質問をされても、手元に資料がなくて、すぐに答えることができなかったかと思います。それで予め質問カード、意見カードに書いてもらって、各部局から回答するというのがいいのではないかと思います。

(委員) 会議には、代表の方が来ていらっしゃるの、ポンと振れば回答が戻ってくるようなのに、いつも黙っておられるのが疑問です。是非次の第3次からは、血の通った、子どもの動向が見える様な、役所の中で一つの事を考え合えることができると本当にいいなと思います。図書館ネットワークは絶対いいと思いますが、ずっと未実施ですし、血が通っていない会議みたいになってしまっはとても残念だと思います。

(事務局) 担当部課の中でじっくりと検討をしてもらわないと答えができないというようなこともあると思いますので、予め質問カード、意見カードを書いていただいたものを整理させていただいて、各部局から返事をもらうという方法がいいのではないかと思います。

(会長) 一つだけ確認をしておきますが、第2次で「子ども読書活動推進会議設置要綱」ということで、合同会議の時には、推進会議と私共の懇話会が合同でやるというように実施をしてきております。推進会議の設置要綱を見ていただきますと、第2条のところで「子ども読書活動推進計画の策定に関する事」とありまして、策定は基本的には推進会議が中心になるものです。そして推進会議の下に、策定部会というのがありますが、これが実動部隊ということになります。この人達が基本的な計画を練っていった一つのものに組み合わせて推進会議の中で諮っていく。懇話会の設置要綱第2条に「懇話会は、次の掲げる事項を所掌する」とあって、1号に「推進計画の推進に関しての提言」とありまして、少し立ち位置が変わります。

(委員) 推進に関しての提言ですね。決まったことに関してということですね。

(会長) そうですね。ここは、策定されたものの推進に関する提言ということになります。だから合同会議というのは策定したものと推進を提言するものが合同で行うものです。ある程度策定を中心にしていただくとすると、私達は意見を言うところ、この辺の立ち位置だけ間違えといけなかなと思います。だから。逆に言えば、策定していただいたものを本当は見せていただけるとありがたいです。

(事務局) そのできたものについてご意見をいただく場が合同会議になるということです。

- (会長) こういう方針でやりますよというご提言をいただければ、私共はそれに対して意見を述べさせていただくこともできると思います。
- (事務局) そもそも図書館だけではできないのがこの計画ですので、関係部局との連絡調整が必要になってくる訳です。その場が策定部会で、こんなことがあったらということ、検討課題の一つに加えるような形でご意見をいただくのが第1回ということです。その中で何かヒントになって策定部会で採用されていき、出来上がったものが合同会議で示されますが、その前に各委員さんに早めに資料送付をして、それについてご質問、ご意見がありましたら、事前に紙で提出していただく。そして、それを各部局に問い合わせをして、その回答は合同会議の中で部内で検討したものを責任者が発表するという形でどうかと考えております。
- (委員) 第3次は、第2次を受けてのものですよね。だから、全くゼロではないはずで、第2次の総括があって第3次があるはずですよね。逆に第2次のまとめ、総括みたいなものは今作られていないといけませんよね。
- (事務局) 昨年8月18日で一旦中間報告をしておりますので、それを基にご検討いただければということです。
- (委員) 中間報告で検討をするということですか。
- (事務局) 28年度は計画期間中ですので、最終結果は出ておりません。また、第2次計画は26年度までの状況でしか現在は分かりません。それを基に一宮市としてこうあるべきではないかというご意見をお願いをしたいということです。
- (委員) 会議に出られた各部局の方は、計画を示された時に、こういう気持ちがあってということだから、こういう計画を立てましたという内容の説明をしていただけると、私達も理解しやすいと思います。
- (事務局) 合同会議で各部局にそれぞれこういうことで計画を作りましたと説明してもらえんと思います。
- (委員) 私達は、本当に一緒に作り上げ、一緒に進めていきたいという気持ちがあります。質問して答えるという対立した形ではなくて、私達もこうやってざっくばらんにしゃべりますが、各部局の偉い方々にたくさん来ていただいているので、皆さんのこういう気持ちですという声を聞かせていただきたいのです。
- (事務局) 4月、5月ではざっくばらんな四方山話でも結構ですので、そういったものをヒントに策定部会で反映させていければと思っていました。
- (委員) 第3次計画を策定するにあたって、10年間、1次2次とやってきて、既に2次も4年が過ぎて5年目に入っている訳ですので、まとめが全くできていないことでは無いように思います。その中で、例えば5年かけてこういうふうな見通しでやろうと思っていたけれども、色んな状況が変わってきて難しいことがあったとか、この点に関しては非常に効果が上がって子ども達と本を繋ぐ良い効果が見えたという集約を少しずついただけると私達も具体的に想いをお伝えできると思います。そして第3次のときに一宮は今まで10年間の計画の中で今後どうしていきたいと思っているのか、各部門でどういうふうに進めていきたいと思っているのかをお示しいただけると、それに対して私達も日頃の図書館との係わりの中での具体的なことがお話できるかと思いますが。

(事務局) スケジュールにあります4月、5月の第1回懇話会での各委員の方のご意見聴取

につきましては、第2次の進捗状況、例えば、26年度までで、まだ未実施だというものを今後どうするのかというような形についてのご意見をいただいて、それを実際に次の策定部会のほうに反映させていくという流れで今後進めていきたいと考えております。皆さんの意見を策定部会に、またそこで決まったものを懇話会に戻すというようなキャッチボールをしていきたいと考えております。確かに計画を作るのは推進会議が一番の基でございます。実動部隊はその策定部会がある訳でございます。それで、それぞれの皆様方の得意分野とか立場からのご意見を頂戴したいという考えでおります。それらを今後集約して第3次の計画に活かしていきたいというふうに考えております。

(会長) そうしますと、4月、5月に予定通り実施をして、何らかの皆さんのご意見は。

(事務局) 26年度までの進捗状況を昨年の8月にご報告させていただいたものがございす。大きくは27年度も変わってはいないと思いますので、変わったものがあれば、その時にはこう変わりましたというご報告ができるかと思っておりますので、昨年の資料に基づいて、これは第3次にはこういう方向に持っていったほうが良いのではないかなというご意見を皆さんのそれぞれの立場から頂戴したいと考えております。昨年8月の資料をベースの資料としてお考えいただければと思ひます。

(会長) ということですが、皆さんいかがでしょうか。

(事務局) この7月、8月の合同会議ですが、ここでまず27年度の進捗状況の報告がございまして、その後第3次計画の目標値に対する意見交換とございます。当然、どういう思いでこういう目標値を設定したのか、そういったものを推進会議側のほうから説明をさせていただくことになります。今までは、各年度毎の進捗状況だけのお話でしたが、今度は第3次というものを策定するという重い位置ですので、通常の合同会議とは若干異なるというふうに考えております。

(委員) 4月の策定部会についても、それから懇話会についても、基本的にたたき台というのは同じベースだということですね。

(事務局) そうです。

(委員) 策定部会がきちんとしたベースで策定されるのは6月、7月の資料を基に策定されるということですか。

(事務局) そうですね。

(委員) いやいや。ご意見の前に総括として分析がありますよね。その総括は6月、7月のまとめが出た後で、策定部会で具体化されるということですか。

(事務局) あくまでも最初は行政側も懇話会も同じ26年度までの結果で議論なりまとめをということですが、合同会議の直前になりますと、27年度の結果が明らかになってきます。26年度の同じベースで作った素案を合同会議で出します。その上で、27年度の実績からすると、こう修正をしたほうが良いという行政側の意見、あるいは懇話会委員の皆様からの27年度がこうだからこうしてはどうかというご意見をいただいて調整をすることになるかと思ひます。

(委員) だとすると、策定部会が4月と6、7月とにあったとしても、懇話会が提案するというお話であるならば、6、7月のまとめたものを基に懇話会委員の意見という形のほうが効率としても良いのではないですか。

(事務局) 予め4月、5月の段階で今まで感じられたことを汲み上げて、それの中で策定部

会のほうに反映をさせて取り入れられるもの、取り入れられないものを整理して、その結果を6月か7月頃に各委員さんへ郵送し、ご意見、ご質問等をカードでいただいたものを各部局で答を作り、合同会議の中でその答を説明させていただきます。

(会長) 例えば一番問題になってくるのは目標値の設定だと思います。図書館のことは見ますと、ステーションの拡大だとか一人当たりの蔵書冊数、貸出冊数、これだけしかありません。その中にもう一つこんな目標値を入れてもらったかどうか、この数値をもっと上げてもらったかどうか、そういうようなお話をこの席で皆さんと話し合いながら出させていただく。私共は市民の代表という形で推進計画を作り上げていくことになりますので、この目標値を検討する懇話会にしてはどうでしょうか。そうすれば、懇話会の意見で出ましたというふうにご提言いただければ策定部会のほうで検討をしていただいてそれは困りますというようなことを合同会議でお出しいただくというようなことでもいいですので、この辺りでいかがでしょうか。

(事務局) 4月、5月の時に目標値について議論されて、その結果を策定部会のほうで反映させるのか議論し、その結果について案に取り入れていくと考えております。

(会長) 目標値だけということであれば、私達委員としても話もしやすいと思います。基本的な文言とかまで踏み込んで私達がお話をすると、策定部会のほうでは自分たちの担当エリアを上司の意見を取り入れながら作ってきますので、反って事務局がやりにくくなると思います。そういうことで、目標値についての提言ということでお話をさせていただくということはいかがでしょうか。

各委員 < 了承 >

(会長) それでは、本日予定しておりました議題について、全て終了いたしました。長時間に渡りご審議いただきましてありがとうございました。